

增 盛 堂

所在 嘉義市嘉義一〇二一

教 別 齋 教 (金幢派)  
 祭 神 觀音佛祖、釋迦、五文昌、三官大帝  
 創 立 乾隆二十年  
 信 徒 八人  
 例 祭 舊曆正月九日、一、三、七、八、十月各十五日、二月十九日、四月八日、五月五日、十二月末日

管理人 嘉義市二五 林如岡  
 財 產 建物敷地〇甲〇〇二九、田一甲七九五〇、年收益八十五圓

沿革 乾隆二十年林阿六なるもの田七分を醸出して自宅に佛像を奉祀したるが其齋堂を建立したるは咸豐年間なるが如し其後明治三十九年の地震に堂宇倒壊したれば今は其殘屋を齋堂に充て居れり

隍 城 廟

所在 嘉義市嘉義三二八

教 別 道 教  
 祭 神 城隍爺、大爺、觀音佛祖、文武判、十二班、伽藍爺、關羅王、城隍夫人、四大金剛、十八羅漢、掌狀、護法、註生娘々、媽祖

創 立 康熙三十三年  
 信 徒 四萬人  
 例 祭 舊曆一月十五日、二月十九日、四月八日、六月八日、七月盂蘭盆、八月二日、十一月十一日

管理人 嘉義六二 周貫世  
 財 產 田五甲五六四〇、畑二甲六一六五、建物敷地〇甲〇三八〇、祠廟敷地〇甲〇四八七、年收益百八十圓

沿革 康熙三十三年の創立にして清國政府時代には其縣知事毎年二回宛本廟に參拜し廟宇の修繕等は官に於て之を營み其不足額を一般信徒の寄附に俟ちたる位にして常に官廳の監督を受け居たるものゝ如し併し廟宇創立改築再築等の詳細は

何等記録の據るべきものなければ詳細を知り難しと

文 昌 閣

所在 嘉義市嘉義四六八

教 別 儒 教  
 祭 神 文昌帝君、先師倉聖人  
 創 立 乾隆五十八年  
 信 徒 一萬人  
 例 祭 舊曆十一月四日

管理人 臺南州知事

沿革 本廟は乾隆五十八年知縣瑞單、瑞龍の發起にて嘉義四門の樓閣を建造せる殘材を以て建設せるもの改隸後嘉義公學校に使用さるゝ事となり財産一切は擧げて同校に寄附せりと

双 忠 廟

所在 嘉義市嘉義一七三二

教 別 儒 教  
 祭 神 巡許遠、土地公  
 創 立 道光丙午年  
 信 徒 三百人  
 例 祭 舊曆一月十五日、二月二日、五月五日、七月二十日、十二月八日、十二月十六日、十二月廿四日

管理人 嘉義三七三 鄭萬清  
 財 產 祠廟敷地〇甲〇一七〇、建物敷地〇甲〇〇四四

沿革 本廟は道光丙午年の創立なりと云ふも當時の狀況不詳、恐らく同街民の寄附に依つて建立されたるものならんと

福 德 爺 廟

所在 嘉義市嘉義五一

教 別 儒 教  
 祭 神 土地公  
 創 立 明治十三年  
 信 徒 三十人  
 例 祭 舊曆一月十五日、五月五日、八月十

五日、十二月廿六日、十二月三十日  
嘉義五〇ノ一 林元棟

管理人 嘉義五〇ノ一  
財產 祠廟敷地〇甲〇一二九

沿革 往時嘉義美街の富豪黃大章守護神なきを遺憾とし自から多額の金員を醸出し且つ街民よりも寄附を仰ぎ同治十三年本廟を創設せり然るに明治三十九年の大地震に廟宇倒壊したれば同地蔡文哲其費用の大部分を醸出し且つ街民よりも寄附を仰ぎ合計一千餘圓を以て明治四十三年之を改築せりと

### 福德爺廟

所在 嘉義市嘉義五一

教別 儒教  
祭神 土地公、徐長四、林鳴章  
創立 不詳  
信徒 三十人  
例祭 舊曆二月二日、八月十五日  
管理人 嘉義五〇ノ一 林元棟  
財產 建物敷地〇甲〇一四九、田二甲二五五五、畑〇甲二二八五

沿革 創立の年代不詳なるも或は嘉慶年間ならんと云ふ其後咸豐元年陶源號、金本立、德茂號以下十七名出捐して改築を行ひしが明治三十九年の地震に廟宇倒壊したれば總爺街民一同協議の上醸金二百圓を投じて再び改築せりと

### 普濟寺

所在 嘉義市嘉義八一

教別 佛教  
祭神 南海觀世音、十八羅漢、媽祖、十八體南海觀世音  
創立 康熙五十年  
信徒 二百人  
例祭 舊曆二月、六月、九月各十九日、三月廿三日、八月廿四日

管理人 嘉義山仔頂 林玉崑  
財產 祠廟敷地〇甲〇六五〇

沿革 本堂は康熙五十年の創立なりと

稱するも詳細不明なり然るに明治三十九年の地震に倒潰したれば林玉崑、劉揚辰等發起して嘉義全市より寄附金六百八十二圓を募り四十二年起工四十四年六月改築竣工せりと

### 福德祠

所在 嘉義市嘉義九

教別 儒教  
祭神 福德爺  
創立 康熙五十五年頃  
信徒 四百人  
例祭 舊曆二月二日、八月十五日、  
管理人 山仔頂三二六 陳有座  
財產 祠廟敷地〇甲〇二一六

沿革 今より二百年前康熙五十五六年頃嘉義市東門内の住民協議の上費用を醸出して本廟を創立せりと云ふも確實なるや疑はし其後明治二十九年頃莊朝勳發起して東門内の住民より金一千圓を募りて改築を加へたるが明治三十九年の大地震に大破したれば今度は莊伯容發起人となり寄附金二百五十圓を募りて其年末工事に着手し四十一年竣工せりと

### 福鎮宮

所在 嘉義市嘉義一五九

教別 儒教  
祭神 土地公  
創立 乾隆三十年  
信徒 四百人  
例祭 舊曆二月二日、七月二十日、八月十五日  
管理人 嘉義一九三 陳登興  
財產 建物敷地〇甲〇一六四

沿革 本廟は乾隆三十年同街の有志協議の上所在信徒より寄附金を募り創立せるものなるが明治三十九年の地震に大破したれば同街の江隆遠自費を擲つて修繕を加へたりと

地藏庵

所在 嘉義市嘉義一二三

- 教別 佛教
- 祭神 地藏菩薩、閻魔土
- 創立 不詳
- 信徒 約壹萬人
- 例祭 舊曆八月二日
- 管理人 嘉義一九
- 財產 祠廟敷地○甲二五二七、建物敷地○甲四二一九、田○甲九八二五、畑○甲三七九六、年收益六十圓

沿革

本廟創立の年代及事情一切不明なり然るに明治三十九年の大地震にて廟宇倒壊せしを以て管理人葉瓜及關係保甲役員協議の上寄附金二百七十圓を募り直ちに改築に着手し同年七月竣工せりと

城隍夫人祠

所在 嘉義市嘉義二二七

- 教別 儒教
- 祭神 城隍爺、同夫人、郭聖王、福德爺
- 創立 百年前
- 信徒 二百人
- 例祭 舊曆四月十六日、五月廿八日
- 管理人 嘉義二二六
- 財產 祠廟敷地○甲○二五三

沿革

今より約百年前嘉義街の郭濯海なる者福州へ受験に赴きしに同地にて病氣に罹れり家人其報を得て大に驚き鹽水港中寮の城隍廟に其全快を祈願したるに間もなく快癒歸省したれば其謝恩の爲め本廟を建立したるものにて其費用は約四百圓を要したりと

有應公

所在 嘉義市嘉義一九四

- 教別 儒教
- 祭神 無縁者の靈
- 創立 乾隆五十三年
- 信徒 七十人

- 例祭 舊曆七月十七日
- 管理人 嘉義一九四
- 財產 祠廟敷地○甲○三〇六

沿革

乾隆五十三年嘉義東門外の住民一同協議の上本廟を建立したるが明治三十九年の大震災に倒れたれば信者一同醮金して其年直ちに改築せり

鎮南宮

所在 嘉義市嘉義二六六

- 教別 儒教
- 祭神 五府王爺、大爺、中軍爺、二爺、善才、良女、觀音佛祖、福德正神、吳王爺、太子爺、神農聖帝
- 創立 乾隆四十二年
- 信徒 三千七八百人
- 例祭 舊曆一月十八日、二月二日、二月十九日、四月廿六日、六月十八日、八月十五日、十月三日
- 管理人及爐主 嘉義五三五
- 財產 祠廟敷地○甲○一三三、建物敷地○甲○一九四

沿革

乾隆年間嘉義南門街の住民が共同出資して街内の平安を祈る爲め創立せるものにて關係者費用等不明なり然るに其後久しく改修築を行はず殊に彼の大地震等を経過し廟宇甚だしく頽廢したるより同街の洪元高主唱して大正四年七月百三十餘圓を投じて修繕を加へたりと

福德祠

所在 嘉義市嘉義一一六

- 教別 儒教
- 祭神 土地公
- 創立 不詳
- 信徒 約百人
- 例祭 舊曆一月十五日、二月二日、八月十五日
- 管理人 嘉義五二
- 財產 祠廟敷地○甲○〇三一、建物敷地○甲○〇九九

沿革 本祠の創立に就いては年代工費關係者等一切不明なり然るに大正元年市區改正の爲め永涵口街より寄附金を募集して移築せりと

### 關 廂 廟

所在 嘉義市嘉義三八八

教 別 儒 教  
 神 關帝君、土地公、土地婆、羅總爺、婦人媽  
 創立 嘉慶五年  
 信徒 二千人  
 例 祭 舊曆一月十五日、二月廿三日、八月十五日  
 管理人 嘉義七一 陳景秋  
 財產 祠廟敷地○甲○四○

沿革 本廟は嘉慶五年嘉義西門外街の住民一同が部内平安の爲め創立せる者なるが其後年久しく改修せざる爲め廟宇甚だしく荒廢したれば咸豐六年大改築を加へたり然るに明治三十九年の大震災に大破したれば西門外の住民より寄附金を募り又々改築せりと

### 溫 陵 媽 廟

所在 嘉義市嘉義七八六

教 別 儒 教  
 祭 神 媽祖、同部下、千里眼、順風耳、土地公、觀音佛祖、同部下  
 創立 不詳  
 信徒 約百人  
 例 祭 舊曆三月三日  
 管理人 嘉義 陳 港  
 財產 建物敷地○甲一二一六、畑○甲七一〇、年收益二百五十圓

沿革 本廟の創立に關する一切の事情不明なり其後明治三十九年大地震の爲め倒潰したれば其敷地を賣却し現在の位置に移築せりと其工事に關しては林英三、柯方東、陳勝輝等其掌に當れりと

### 震 安 宮

在所 嘉義市嘉義五七三

教 別 儒 教  
 祭 神 何府王爺、同部下、玄天上帝、福德爺、池府王爺、清水祖師  
 創立 不詳  
 信徒 三百人  
 例 祭 舊曆一月十五日、三月三日、六月十八日、七月廿九日、八月十五日、十月十六日  
 管理人 嘉義五七一 黃乃賢  
 同 五六五 賴騰雲  
 財產 建物敷地○甲○二二二

沿革 元來は個人の自宅に奉祀せしものなるが次第に信仰者を増し遂に近隣多數の信仰する處となり所在住民協議の上廟宇を建立し遷祀するに至りたるものなれど其時代及工費等不明なり然るに明治四十二年本廟敷地は嘉義公學校の敷地として買収されたれば信徒有志一同は各自相當の贖金を爲し約三百圓を投じて現在の場所に移築遷祀せるものなりと

### 義 德 堂

所在 嘉義市嘉義八〇二

教 別 齋 教 (龍華派)  
 祭 神 觀音、釋迦、韋馱、護法、關羽、城隍爺、福德爺、五公  
 創立 大正元年  
 信徒 四十人  
 例 祭 舊曆一月十三日、六月八日、十一月八日  
 管理人 嘉義二二九 張蕭氏玉

沿革 本堂は齋教龍華派の齋堂にして大正元年嘉義の食菜人蘇氏鉗、鍾氏王、黃氏卜の三人が發起建立せるものにして嘉義には其以前に大地震暴風雨等連年災厄打ち續き人心漸く不安なりければ發起人等は之れ神佛の加護薄きに依るものな

れば齋堂を建立し佛像を祀り佛心に立ち歸りて祈願せば其災厄を免かれんとて齋友を説いて贖金し齋堂建立の資に充てたるものゝ如しと

慈福祠

所在 嘉義市嘉義三四八

教別 佛教  
 祭神 觀音佛祖、善才、韋駄天、護法天尊、十八羅漢尊者、註生娘娘  
 創立 康熙元年頃  
 信徒 百五十人  
 例祭 舊曆二月、六月、九月、各十九日、三月二十日  
 管理人 嘉義三四八 蕭氏 慧

沿革 創立の年代不詳其後康熙三十二年郭濯海發起して修繕を加へ後娼妓の診察所に使用せられたるが三十九年の地震に倒壊して再興せず

三山國王廟

所在 嘉義市嘉義三一

教別 儒教  
 祭神 三山國王、韓文公、土地公、天上聖母、觀世音、陳化王、外十一神體  
 創立 乾隆年間  
 信徒 二百人  
 例祭 舊曆二月廿四、五日、三月廿三日、八月二日、九月九日、十二月五日  
 管理人 嘉義七九九 郭五湖  
 同 同 九三 林海  
 同 同 一八〇一 賴鴻濱  
 財產 田二六甲三一三四、佃三甲九五五五  
 建物敷地〇甲四四七六

沿革 乾隆年間の創立なりと云ふも創立當時の狀況詳らかならず察するに潮州人は多く本祭神を各戸に奉祀するが故に移住の時携へ來つて同郷人のみにて本廟を建立奉祀したるものと思はる然るに其後年所を經且つ明治の末年には震災風水

災等屢々被害を蒙むりたれば林海、賴鴻濱、郭連登等發起して之れが改築を企畫し廟の所屬財産及び有志寄附等併せて五千圓を以て大正四年之を改築したりと

協安宮

所在 嘉義市嘉義七二

教別 儒教  
 祭神 媽祖、福德正神、宮娥、香花女婢、千里眼、順風耳  
 創立 道光二年  
 信徒 四百人  
 例祭 舊曆二月二日、三月廿三日、八月十五日  
 管理人 嘉義一〇九 何 健  
 財產 祠廟敷地〇甲〇一八〇

沿革 本廟の創立は今より百餘年前と稱するも當時を徵すべき記録なければ一切詳かならず其後明治三十九年の震災に廟宇倒潰したれば當時の保正顔統なる者私財千五百圓を投じて改築せり尤も此私財は顔統が本廟祭神に祈願して彩票を買ひしに圖らずも二萬圓に當りたれば其謝恩の爲め當選金の中より支出せるものなりと

福德祠

所在 嘉義市嘉義四三

教別 儒教  
 祭神 福德正神、王爺、觀音、十八羅漢、虎爺  
 創立 不詳  
 信徒 千二百三十人  
 例祭 舊曆二月二日、六月十八日、八月十五日  
 管理人 嘉義五八 林 興  
 同 同 四七 陳 知 高  
 財產 建物敷地〇甲〇七三六

沿革 本廟創立當時の狀況は一切不明なり然るに明治三十九年の大震災に倒潰したれば同廟信者中の有志林卯、吳居、

羅享、汪頂順、蘇利、吳連興、蔡祿等發起人となり一般信徒より金五百六十六圓を集め再興したるが其後大正八年に至り嘉義小學校の敷地に買収されたれば廟宇敷地共之を賣却して同年現在の處に移轉新築せりと

### 仁武宮

所在 嘉義市嘉義二二一

教 別 儒教  
 祭 神 保生大帝、張老爺、江老爺、註生娘娘、土地公、太子爺、虎爺  
 創 立 乾隆十年  
 信 徒 二百餘人  
 例 祭 舊曆三月十五日、五月二日、八月十五日  
 管理人 嘉義二一九 蔡耀廷  
 財 產 建物敷地○甲○二九一

沿革 本廟は乾隆丁亥年翁雲寬の盡力に依りて創立されたるものなりと云ふも詳細の事は不明なり然るに其後年所を経るまゝに廟宇漸く荒廢に瀕し且つ市區改正の路線に當るを以て蔡耀廷の發起にて廟宇隣接地に移築する事とし信徒及有志より勞力材料の寄附を仰ぎ殆んど金員を費さずして大正元年現在の廟宇を新築せるものなりと

### 懷安宮

所在 嘉義市嘉義二四四

教 別 儒教  
 祭 神 五府千歲爺、將爺、大爺、佞爺、土地公  
 創 立 約二百年前  
 信 徒 二百人  
 例 祭 舊曆一月十五日、二月二日、四月廿六日  
 管理人 嘉義一三三 蔡進添  
 財 產 建物敷地○甲○三七五  
 沿革 今より約二百年前、嘉義暗街仔

の住民相圖りて本廟を建立せりと云ふも詳細不明なり、其後明治三十九年の大震災に大破したれば蔡進添發起となり自から私財二百餘圓を擲つて之れが修覆を行ひたりと

### 開甲廟

所在 嘉義市嘉義一四六

教 別 儒教  
 祭 神 福德正神、上帝爺  
 創 立 道光二十四年  
 信 徒 四十人  
 例 祭 舊曆二月二日、八月十五日  
 管理人 嘉義一四九 陳亨  
 財 產 祠廟敷地○甲○〇六二

沿革 道光二十四年道事宋鳴岐、黃元成、蔡光輝、吳阿株、徐西庚、黃添等發起嘉義の日進月歩の發展に伴ひ惡瘡災厄を免かるゝ爲め土地公を祀り除厄を祈らざるべからずとし寄附金三百八十八圓を募集し本廟を建立せりと

### 太元堂

所在 嘉義市嘉義一四二

教 別 齋教 (龍華派)  
 祭 神 釋迦、三寶佛、觀音、韋駄、護法、三官大帝、關帝爺、城隍爺、土地公  
 創 立 乾隆年間  
 信 徒 二百人  
 例 祭 舊曆二月十九日、四月八日、六月十九日、七月十五日、九月十九日、十月十五日、十二月八日  
 管理人 嘉義五一四 吳大頭  
 財 產 田四甲○二七三、祠廟敷地○甲○七三六、年收益百五十圓

沿革 乾隆年間嘉義の食菜人李芳義、董氏麗水、沈氏晉籌等齋友等を説いて本堂を建立したりと稱するも年次其他詳かならず其後明治三十九年及四十年に修繕を加へたるも其費用及出途詳かならずと

丹霞堂

所在 嘉義市嘉義二一八

教別 儒教  
 祭神 開漳聖王、關羽、柴夫子、韓信、韓二將軍  
 創立 道光二十五年  
 信徒 五十人  
 例祭 舊曆一月十三日、自二月十三日、至十五日  
 管理人 中埔庄頂六 郭心好  
 財產 田八甲七八〇〇、畑三甲九二七五、年收益二百五十圓

沿革 本廟は道光二十三年漳州より移住せしものゝみに依りて創立せられたるものなるが咸豐二年の震災に倒潰せるより陳、郭、許の三名發起して附近の漳州人より六千四百三十一圓の寄附を募り本廟を再興せりと

慈濟宮

所在 嘉義市嘉義二〇九

教別 儒教  
 祭神 五王爺、鄭成功  
 創立 道光二十三年  
 信徒 三百人  
 例祭 舊曆一月十六日、一月十八日、四月廿六日、六月十八日、九月廿六日、十月十八日  
 管理人 嘉義二二一 巫朝鳳  
 財產 建物敷地〇四〇七八七

沿革 本祭神は初め個人の宅に奉祀したるに靈顯著しきものあるより漸次信徒を増し信徒中の張海諒、張振貴、同人妻張宗耀等發起となり信徒中より一千圓の寄附を募集し道光二十三年本廟宇を建立して祭神を遷祀せりと

觀音亭

所在 嘉義市嘉義二〇四

教別 佛教  
 祭神 觀音佛、太子爺、土地公、五谷王  
 創立 不詳  
 信徒 四十名  
 例祭 舊曆二月、六月各十五日、四月廿四日、八月十日  
 管理人 嘉義一九八 莊 火  
 財產 祠廟敷地〇甲〇一二四

沿革 創立緣起等一切不明なり然るに明治三十九年の大震災に廟宇倒潰せしを以て葉發、黃猷等發起して蕃社口の住民より寄附金百餘圓を募集し舊材料を使用して現在の廟宇を建築せりと

阿彌陀廟

所在 嘉義市山仔頂八三四

教別 佛教  
 祭神 釋迦牟尼佛、十八羅漢、觀世音、彌勒、韋駄天、護法天尊  
 創立 康熙元年  
 信徒 約三萬人  
 例祭 舊曆二月十九日、四月八日、六月十九日、七月二十五日、十二月十七日、十二月八日  
 管理人 嘉義山仔頂四五六 徐杰夫  
 同 同 八三四 蘇氏妙  
 同 水上庄柳子林 黃晴耀  
 同 同 下寮 陳結財  
 財產 田一甲六二七五、畑一甲三七〇一、原野二甲八二九六、祠廟敷地〇甲〇八三六、年收益不詳

沿革 本廟は乾隆二十三年の創立にして其後柴頭港堡内二十八庄民の贖金にて修繕し更に嘉義縣守曾大木更に之を重修せりと稱するも何等據るべき記録なければ正否不明なり然るに其後久しく改築を加へず且つ風水災震災等ありて荒廢甚だしかりしかば僧侶義敏、山仔頂高僧、崑、陳烏番、薛果堂等發起して寄附金二千圓を集め明治四十二年改築は着手し、正四年一月竣工せりと

### 福山宮

所在 嘉義市山仔頂七二七

教 別 儒教  
 祭 神 玄天上帝、土地公、城隍爺、五谷王  
 羅東太子  
 創立 明治三十四年頃  
 信 徒 一千二百人  
 例 祭 舊曆三月三日、四月廿六日、八月二日、八月十五日、九月九日  
 管理 人 山仔頂六九九 江登貴  
 財 產 建物敷地○甲○七〇〇

沿革 本廟の主神上帝爺は始め庄民江奉輝方に奉祀し居たるに靈顯著しとて庄民の信仰を受け遂に江文金なる者發起人となり庄内及嘉義より寄附金九百餘圓を募集し明治三十四年頃本廟を建立して祭神を遷祀したるものなりと

### 萬安亭

所在 嘉義市山仔頂三八二

教 別 儒教  
 祭 神 大眾爺  
 創立 道光十三年  
 信 徒 五萬人  
 例 祭 曆舊六月十五日  
 管理 人 山仔頂三七一 柯老拌  
 財 產 田二甲一八一九、畑一甲二四六五、池○甲一一五〇、祠廟敷地○甲二〇三五、原野○甲五三七二

沿革 本廟は道光十三年嘉義營都司洪志高主唱となり附近の圓福寺の重修と共に建立せしものなりと傳へらるゝも詳細詳かならず其後同治己巳年主事陳熙年、黃大章、白英、賴時輝發起して寄附金千百圓を募り千二百六十餘圓を投じて改築したるが不足金百七十餘圓は張高不之を出捐せり然るに明治三十九年の大震災に大破したれば翁螺富、徐既翁、許厚厘、鄭子河等發起して嘉義及山仔頂等より寄附

金三百八十圓を募り大修繕を加へたりと

### 佛祖廟

所在 嘉義市山仔頂三八二

教 別 佛教  
 祭 神 佛祖、太子爺、元帥爺、王爺  
 創立 道光二十三年  
 信 徒 一萬五千人  
 例 祭 舊曆二月、六月、九月各十九日  
 管理 人 盧厝二〇一 李銀旺

沿革 始め李肯厚なる廣東人本島移住の際佛祖の神像を奉じ來り自宅に奉祀し日夜信仰せるに靈顯著しかりしかば附近の住民も漸次之を信仰し道光二十三年嘉義營參將翁志高之を聞き主唱して醮金を集め本廟を建立せり然るに其後咸豐十一年及光緒三年の二回廟宇荒廢したれば有志の喜捨を仰いで之を改修したるが大正五年に至り本廟所在地は公園取擴げの爲め立除きを命せられたれば翁羅監主唱して信徒一同より一千金を募り立除き料として下附されたる三百七十餘圓と合して廟宇の移轉新築に着手し大正六年三月竣工せりと

### 萬善祠

所在 嘉義市山仔頂三八二

教 別 儒教  
 祭 神 五百三公  
 創立 乾隆五十三年  
 信 徒 百人  
 例 祭 舊曆三月十日、三月廿日  
 管理 人 なし

沿革 乾隆五十一年林爽文の亂に征討の清軍に従ひ殉職せるものゝ死骸を集めて祀りたるものにして其後重修せし事あるも詳細詳かならず尙ほ本祠は大衆廟と舊時より密接の關係ありて同廟願廟が時々來つて構内の手入掃除を爲すと



玄天上帝爺廟

所在 嘉義市盧厝五六〇

教 別 儒教  
 祭 神 玄天上帝、太子爺、土地公  
 創 立 大正二年  
 信 徒 二千餘人  
 例 祭 舊曆三月三日  
 管理 人 盧厝六六一 吳 有  
 財 產 祠廟敷地〇甲〇三七〇

沿革 本祭神は最初竹頭崎より分香し  
 來り各爐主の宅に輪廻奉祀し來りたるが  
 大正二年保正吳有主唱して私財二百圓を  
 出し別に部落民より寄附を募り合計七百  
 圓を得て廟宇を建立し此處に遷祀したる  
 ものなりと

福德爺廟

所在 嘉義市盧厝四〇

教 別 儒教  
 祭 神 土地公、土地婆、五谷王  
 創 立 明治三年  
 信 徒 一千人  
 例 祭 舊曆二月二日、四月廿六日、五月廿  
 九日、八月十五日、十月十五日  
 管理 人 盧厝二〇一 李 銀 旺  
 財 產 畑一甲二六〇〇

沿革 同治三年同地の有志相謀りて廟  
 宇を建立し本祭神を奉祀したるものなる  
 が明治三十九年の大震災に倒潰したれば  
 李招尙發起人となり所在地の住民より三  
 百圓を募集し翌四十年現在の通り改築せ  
 りと

三 臺 宮

所在 嘉義市臺斗坑四三八

教 別 儒教  
 祭 神 保生大帝、開漳聖王、福德爺、池府  
 王爺  
 創 立 雍正六年  
 信 徒 六百餘人

例 祭 舊曆二月十五日、三月十五日、六月  
 十五日、八月十五日

管理 人 臺斗坑四七 莊 達  
 財 產 祠廟敷地〇甲一二八四、原野一甲六  
 八一七、畑〇甲〇八五九

沿革 雍正五年林耀烈なる者支那より  
 保生大帝を奉じ來り自宅に奉祀せるが偶  
 惡疫流行して本祭神に祈願せる者は何れ  
 も著しき靈顯ありたれば信者の勧めに依  
 り林耀烈自から發起人となり附近の部落  
 民より寄附金七百圓を募り雍正六年本廟  
 を建立して祭神を遷祀せり其後道光八年  
 廟宇狹隘を感じたるを以て有志より金千  
 二百圓を募りて之を改築したり降つて明  
 治三十九年の地震に廟宇倒潰したれば林  
 運臣、林洪等發起となり嘉義西堡一圓よ  
 り二千五百圓の寄附を募り又々大改築を  
 爲せりと

朝 陽 宮

所在 嘉義市後湖八三

教 別 儒教  
 祭 神 池府王爺、福德正神、九天玄女  
 創 立 乾隆十三年  
 信 徒 二百人  
 例 祭 舊曆六月十七日、八月十五日、九月  
 九日、十一月十二日  
 管理 人 後湖四九 郭 丙  
 財 產 原野〇甲二三七〇、祠廟敷地〇甲三  
 三四五

沿革 乾隆十三年頃支那の行商人が王  
 爺を携へて當地に來り露店に休憩して曰  
 く當部落に近く惡疫流行すべしと果して  
 間もなく惡疫流行したれば之れ必ず王爺  
 の誠告ならん王爺に祈願せば病氣平癒す  
 べしとて部落民均しく之を信仰したるに  
 病氣又た熄滅したれば郭公萍なる者發起  
 となり信者一同より三千二圓を集め本廟  
 を建立せり然るに明治三十九年の地震に  
 倒潰したれば郭丙發起して又々寄附金を

募り明治四十五年再び之を改築せりと

### 五 顯 帝 廟

所在 嘉義市埤子頭三四二

教 別 道教  
 祭 神 五顯帝  
 創 立 不詳  
 信 徒 二百人  
 例 祭 舊曆九月廿六、七日  
 管理 人 埤子頭三三九 陳 租

沿革 沿地陳某支那より五顯帝を分香し來り之を籠めて神像を刻み廟宇を建立して奉祀せりと傳へらるゝも年代不詳、然るに其後數年を出でずして廟宇荒廢したれば黃貴林、黃魁等發起して寄附金八十餘圓を募りて修繕を加へたりと云ふも之れ又た年代不明なり

### 王 爺 廟

所在 嘉義市埤子頭三四一

教 別 儒教  
 祭 神 池王爺、仙人  
 創 立 乾隆五十年  
 信 徒 七十人  
 例 祭 舊曆一月十八日、六月十八日  
 管理 人 なし

沿革 乾隆五十年林其祥なる者が泉州より移住の際奉持し來りし者にして部落内の同姓相謀つて廟宇を建立し祭神を奉安せりと云ふも詳かならず其後の改修築等も不詳

### 福 德 爺 廟

所在 嘉義市埤子頭三二三

教 別 儒教  
 祭 神 土地公、土地婆、媽祖、千里眼、順風耳  
 創 立 不詳  
 信 徒 二百五十人  
 例 祭 舊曆八月十五日

管理 人 埤子頭三二三 陳 德 旺  
 財 產 祠廟數地○甲一三七五

沿革 本廟は今より約七八十年前許某獨自の創立に係る者にして此附近は初め一帶の墓地にして其中に骨堂の如き小堂あり許某其地に墓を作らんと欲し庄民と交渉の上其小堂を除きて墓地たらしむる事を諾せば別に大廟を建立し其上基本財産として綬六十石を奉納すべしと約し其後間もなく實現せるものなりと

### 有 應 公 廟

所在 嘉義市埤子頭四〇七

教 別 儒教  
 祭 神 無縁者の靈  
 創 立 不詳  
 例 祭 舊曆毎月一日、十五日  
 信 徒 約四百人  
 管理 人 埤子頭二四二 陳 斗  
 財 產 祠廟數地○甲〇〇〇二

沿革 本廟は嘉義の隣庄番社の熟番人が創立せるものにして其年代は多分咸豐年間ならんと云ふ其後明治七年嘉義街の王内なる者修繕を加へ更に明治三十一年董郡なる者改築せりと

### 保 安 宮

所在 嘉義市北社六六七

教 別 儒教  
 祭 神 保生大帝、康元帥、趙元帥、五谷爺  
 創 立 雍正元年  
 信 徒 四百餘人  
 例 祭 舊曆二月十二日、三月十四日、三月十八日、四月廿八日、八月十五日、九月十八日、十月十五日  
 管理 人 北社尾六六八 陳 海 亭  
 財 產 祠廟數地○甲〇九三五

沿革 雍正元年蕭益容なる者の自宅に奉祀せる孫真人の神像を北社尾住民請ふ

て一小廟宇を建立奉祀したるものなり其後道光庚寅年陳子元發起にて庄民より寄附を募り修繕を加へたるが明治三十九年震災の爲倒潰せり、依つて同地の保正等相謀つて嘉義西堡一圓より寄附金二千七百餘圓を募り大正四年之を改築せりと

### 王爺廟

所在 嘉義市車店三六一

教別	儒教
祭神	開山尊王、五谷王、太子爺、土地公
創立	同治七年
信徒	三百五十人
例祭	舊曆七月十五日
管理人	車店三五〇 李 炭
財產	祠廟敷地〇甲一〇五〇、田〇甲四六六〇

沿革 本廟は康熙年間の創立なりと稱するも當時の狀況を一切知る者なし然るに其後廟宇荒廢したれば車店の李兩及吳貴枝の兩人發起して庄内外の信徒より醮金五百圓を募り改築せりと其他不詳

### 上帝爺廟

所在 嘉義市車店四五七

教別	儒教
祭神	上帝爺、趙元帥、康元帥、土地公
創立	同治九年
信徒	百五十人
例祭	舊曆三月三日、八月十五日
管理人	車店四五七 陳 壠
財產	祠廟敷地〇甲〇八五〇、畑〇甲二六六〇

沿革 古老の言に依れば往時支那人當地移住の際上帝爺を奉じ來り祠を建て、奉祀せるに創まると云へど詳細は不明なり、然るに明治三十九年の大地震に廟宇倒壊したれば陳孟其再興を主唱し保正陳良を始め一般信徒も之に賛同したれば醮

金四百餘圓を得て明治四十五年二月改築の工を起し五月竣工せりと

### 玄天上帝廟

所在 嘉義市下路頭二〇八

教別	儒教
祭神	上帝爺、觀音佛祖、羅童太子、王爺
創立	嘉慶二十年
信徒	四百人
例祭	舊曆三月三日、九月九日、九月十九日
管理人	下路頭四五七 林來順
財產	祠廟敷地〇甲〇六五〇

沿革 嘉慶二十年頃當庄の張節令なる者庄内有志より寄附金を募りて本廟を建立し玄天上帝を主神として奉祀せり然るに明治三十八年廟宇大破せるを以て同地の林來義發起して庄内信徒より六十圓の喜捨を集め大修繕を加へたるものなりと

### 土地公廟

所在 嘉義市下路頭七二

教別	儒教
祭神	福德爺、五谷王
創立	道光丁亥年
信徒	二百人
例祭	舊曆四月廿六日、八月十五日
管理人	下路頭七七 黃 糖
財產	畑〇甲二三六〇

沿革 本廟は道光丁亥年嘉義南門外の薛天送が發起して有志の喜捨を集め且つ祖父の土地を買受けて廟宇を建立奉祀したる者其他の狀況不詳

### 土地公廟

所在 嘉義市下路頭一四〇

教別	儒教
祭神	福德正神
創立	約百年前
信徒	三百人
例祭	舊曆二月二日、八月十五日

管理人 其他なし

沿革 今より約百年前庄民共同の建立なりと云ふも詳細不明なり其後明治三十九年の地震に破損したれば下路頭の林來義主宰となり信徒より捐金若干を集め之を修葺せりと

### 祠 公 廟

所在 嘉義市下路頭四〇八

教 別 儒教  
 祭 神 考美源羅公、妣孺人廖氏、土地公、白沙王、關帝君、池王爺  
 創立 大正四年  
 信徒 五百人  
 例 祭 舊曆八月廿二日、十一月廿三日  
 管理人 下路頭四〇八 羅君榮  
 財產 田六甲六八二五、年收穀百餘圓

沿革 本廟は同地羅姓の一族が醴金八百圓を投じて大正四年建立せる者にして主神は同姓の當主羅君榮の十八代前の祖先なりと

### 蕭 姓 公 廟

所在 嘉義市竹子脚三一五

教 別 儒教  
 祭 神 蕭四發及其子孫、觀音媽  
 創立 約百四十餘年前  
 信徒 百五十人  
 例 祭 舊曆十一月二日  
 管理人 竹子脚三一五 蕭全  
 財產 建物敷地〇甲〇二三〇

沿革 本廟は當地蕭姓の家廟にして主神蕭四發は今より百十數年前當地に移住せる者にて圓滿なる人格を有し家業を納め郷黨の畏敬する處たり四發歿後其子蕭水溟四發の住家を當地蕭姓の祖廟に充て先づ四發を奉祀せるが明治三十九年震災に倒潰したれば蕭龜發起となり當地蕭姓七房より等額の醴金を爲し現在の廟宇を造營せりと

### 蕭 姓 私 廟

所在 嘉義市竹子脚一七八

教 別 儒教  
 祭 神 蕭祿公、同上子孫  
 創立 約百三十年前  
 信徒 六十人  
 例 祭 舊曆三月三日、五月五日、七月十五日、九月九日、十一月冬至日  
 管理人 竹子脚一六六 蕭利在  
 財產 建物敷地〇甲一一六五

沿革 本廟は今より百三十年前蕭原なるものゝ創立にして祭神蕭祿公は其以前一度臺灣に來り支那に歸還して死亡したるものにて本島蕭姓の始祖とも云ふべき者なりと次いで明治三十九年の震災に倒潰したれば蕭原在なるもの庄内の蕭姓より寄附金七百圓を募り同三十九年改築竣工せりと

### 紫 微 宮

所在 嘉義市大溪厝五九九

教 別 儒教  
 祭 神 上帝爺、土地公、太子爺、五谷王、虎爺  
 創立 不詳  
 信徒 七百人  
 例 祭 舊曆二月不定日  
 管理人 大溪厝三八四 賴新居  
 同 同 四九七 賴爲  
 同 同 三九九 黃溪泉  
 財產 祠廟敷地〇甲三〇八〇、田〇甲五二八五

沿革 當地に東より西に流るゝ小溝あり往時或地理師之を視て村の疲弊するは此の水流の爲めなり宜しく此の水の出口に土地公を祀るべしと住民相謀つて其地に廟宇を建て土地公を祀りたり之れ本廟の創立にして其年代等不明なり然るに明治三十九年の震災に廟宇倒潰したれば賴登黃溪泉、陳新居、陳榮教等發起して信

徒と協議し寄附金四百圓を募集し直ちに  
工事に着手し明治四十二年二月改築竣工  
せりと

### 眞誠宮

所在 嘉義市柴頭港八〇

教別 儒教  
祭神 上帝爺、太子爺、土地公、土地婆、  
虎爺

創立 不詳  
信徒 百人

例祭 舊曆三月三日

管理人 柴頭港一〇二 李 昌  
財產 祠廟敷地〇甲二〇九五、原野一甲二  
一八〇

沿革 本廟の創立改築修繕等一切不明  
なり

### 上帝爺廟

所在 嘉義市港子坪三四九

教別 儒教  
祭神 上帝爺、土地公、池府王爺

創立 不詳

信徒 二百人

例祭 舊曆三月三日

管理人 港子坪三三 鄭 白本  
財產 祠廟敷地〇甲一六八五

沿革 本廟の創立年代不明なり祭神は  
元一庄民の宅に祀りありしが祭典其他不  
便の事多きより庄民協議の上本廟を建立  
せりと云ふ併し現今は甚だしく荒廢して  
舊態を存せずと

### 三間仔

所在 嘉義市劉厝

教別 佛教

祭神 觀音佛祖、上帝爺、池府王爺、土地  
公、關帝爺

創立 明治三十一年

信徒 六十人

例祭 舊曆二月十日、二月十九日

管理人 劉厝一九〇 邱 建 祥

沿革 明治三十一年の建立にして甚だ  
粗末なる一小宇なり尤も此廟宇建立に依  
つて部内繁昌せば直ちに改築の筈なりし  
に却つて悪疫流行して死亡者多く明治四  
十年頃遂に倒壊せり爾來再興を希望する  
者あれど前述の如くなれば又々悪疫の流  
行を恐れて再興を望まざるもの多しと

### 水竹寺

所在 水上庄湖子内

教別 佛教

祭神 觀音佛祖、福德爺、王公、王媽、虎爺

創立 明治三十一年

信徒 八十人

例祭 舊曆二月十九日、八月十九日

管理人 湖子内一五一 羅 定 國

財產 田〇甲五三二〇、畑一甲〇八七〇

沿革 當庄民の大部分は羅姓なり明治  
二十九年同姓の者協議の上祖先を祀る祖  
厝を建立するの計を立て羅松、羅明溝發  
起となり寄附金四百二十圓を集め本廟  
を建立せり此の祖厝に佛祖を祀るは羅姓  
と祖を一にせる南靖庄の後寮に觀音佛祖  
を祀る小祠ありしが明治三十七年の暴風  
雨に倒壊したれば佛祖を祖厝に遷祀した  
るものなりと

### 保元殿

所在 水上庄湖子内

教別 儒教

祭神 玄天上帝、天上聖母、太子爺、土地  
公、土地婆、三官大帝

創立 道光丁酉年

信徒 百八十人

例祭 舊曆三月四日

管理人 湖子内四九 羅 傳

財產 祠廟敷地〇甲二六五〇

沿革 本廟の祭神は庄民が支那より奉  
じ來りたるを庄民協議の上廟宇を建て奉

沿革及經理 田尾にて年々番社の観音佛祖を請ふて巡庄祭典を行ふ際佛幡を擔ぐ者なきより施應と云ふ者發起して本會を組織せり維持費は信者の寄附を貸付其利子之に充てゝ居る現在維持基金十六圓年利息四圓ありと

### 陳聖王會

番社庄番社  
祭神 陳聖王  
會員 四十人(當地陳姓)  
創立 約八九十年前  
例祭 舊曆二月十五日  
壇主 番社庄番社 陳反虫  
管理人 同 陳安察

沿革及經理 鳳尾階の陳祈川なる者發起して本會を創立し會員より五十錢宛を出金し之を利殖蓄積して例〇甲七二七五を買入れ其收益二十八圓を維持費に充てゝ居ると

### 媽祖會

番社庄前大埔  
祭神 媽祖、千里眼、順風耳  
會員 十一人(同地業姓)  
創立 文化末年  
例祭 不詳  
壇主 番社庄前大埔 葉佩  
管理人 同 葉勇

沿革及經理 同地移住の葉姓の祖先が北港媽祖より分香し來り本會を組織せり當初會員各一圓宛を出し之を利殖蓄積して田一甲餘を購入し之を維持費に充て尙ほ殘金を利殖蓄積して居たが偶々回收不能に陥りたれば明治三十年頃該土地を買却し神像を改刻し殘餘は會員に分配せりと

### 觀音會

番社庄前大埔  
祭神 觀音佛祖  
會員 二十人( )  
創立 明治七年  
例祭 舊曆  
壇主 番社庄前大埔 湖溜九  
管理人 同 周連春

沿革及經理 當地の周科なる者岩前大仙岩より觀音三媽の香灰を請分し來り佛像を刻みて之に收め觀音媽巡行の際隨從せしめんとするも擔幡なきより周科發起して本會を組織し會員各一圓宛を出して之を基本財産とし之れが貸付利子を以て祭費維持費に充てゝ居るか現在基金七十圓貸付利子年十圓餘ありと

### 三便公會

番社庄前大埔  
祭神 三便公、劍童、印童、馬軍  
會員 十八人(同地蔡姓)  
創立 明治元年  
例祭 舊曆一月七日  
壇主 番社庄前大埔 蔡德音  
管理人 同 蔡威

沿革及經理 同地蔡姓の祖先が漳州より移住の際葉三便公を奉じ來り自宅に奉祀し居たるか蔡往定なる者發起して同地蔡姓を募りて本會を組織せり維持費祭事費は必要に應じ會員より釀出すと

### 佛祖會

番社庄前大埔  
祭神 碧雲宮の主神  
會員 三十二人( )  
創立 文化末年  
例祭 碧雲宮祭日  
壇主 番社庄前大埔 吳再添  
管理人 同 陳助

沿革及經理 碧雲宮の勸請を請ひ部内平安を祈る爲め本會を組織し會員各若干を贖金し之を貸付て利殖を計り其中より祭事費維持費を支辨し來りたるか現在に百六十餘圓の蓄積金を有するに至れりと

### 范王會

番社庄前大埔  
祭神 范府先師  
會員 十六人( )  
創立 明治四十一年  
例祭 不詳  
壇主 番社庄前大埔 曾阿恭  
管理人 同 吳元

沿革及經理 同地龔天生なる者が祖先より繼承奉祀し來りたる者にて同地吳元が發起して本會を組織し會員各二圓宛を出し基本金とし爾來其基金利息を以て祭事費維持費に充て居れり現在基金六十圓年收利息九圓ありと

### 嘉義宗教團體

#### 嘉義市

### 觀音大士會

嘉義市東門内九  
祭神 觀音大士  
會員 十人(附近在住商賈)

創立 咸豐十年七月  
 爐主 嘉義市南門内二〇 郭牛足  
 沿革及經理 本會は民雄庄の大家翁を信仰する者に  
 して其祭典當日參詣し能はざる者の便を圖る爲め莊朝  
 勳、吳蕃薯等發起して創立せしものなり維持費祭事費  
 は會員の喜捨に依りしも大正三年會員各五圓宛を譲り  
 出し爐主管理の下に利殖を圖り維持費を支辨しつゝあ  
 現在金五十圓、年利息十圓ありと

先師爺會 嘉義市西門外一八

祭神 考聖先師爺  
 會員 十一人(西門外の捐物大工)  
 創立 大正二年五月  
 例祭 舊曆五月七日

爐主 嘉義市西門外一八 白水

沿革及經理 李胚外三名の者發起となり捐物大工の  
 始祖たる巧聖先師爺を祀り感恩報謝を爲すべしと本  
 會を組織し會員より一圓乃至三圓の醸出を求め年一回  
 の祭費に充つる事と爲し居れり

關帝君會 嘉義市西門外八二

祭神 關帝君  
 會員 二十八人(同地有志)  
 創立 大正元年六月  
 例祭 舊曆一月十三日、五月十三日、六月  
 廿四日

管理人 嘉義市西門外八二 賴汝崇

沿革及經理 會員の親睦を計らん爲め會員各十二圓  
 五十錢の出金を爲し之れか利殖に依り年三回の祭祀費  
 に充つる事とし賴汝崇、黃明讓等發起にて本會を創立  
 せり現在貸金三百圓、年利息四十八圓ありと

伽藍爺會 嘉義市西門外八二

祭神 伽藍爺  
 會員 十人  
 創立 明治七年  
 例祭 舊曆八月十六日

管理人 嘉義市西門外八二 賴汝崇

沿革及經理 元聖王廟に祭られたる伽藍爺の神像を  
 同廟の廢止と共に迎え來り本會を創立せる者にして所  
 屬財産として田地を有したるも明治二十九年之を賣却  
 し爾來其金を貸付け利殖を計り祭事費維持費に充て、  
 居る現在貸金一百八十圓、年利收益二十六圓餘あり

土地公會 嘉義市西門外七六一

祭神 福德爺  
 會員 二十五人(舊三炮竹在住有志)  
 創立 約二百年前  
 例祭 舊曆八月十五日  
 爐主 嘉義市西門外七一 邱角

沿革及經理 最初所在の部落民廟宇を建て土地の守  
 護神として福德爺を祀りたるが其後百二十年後に至り  
 廟は破損し且つ土匪の襲來頻繁なるより庄民多く廟を  
 捨て、移住せし故庄民の有志相謀りて祭神を迎え本會  
 を組織したるものなり所屬財産田〇甲三五八五年小作  
 料收入六圓あり祭事費に充當すと

關帝君會 嘉義市西門外七七九

祭神 關帝君  
 會員 十八人  
 創立 大正二年  
 例祭 舊曆六月廿九日

管理人 嘉義市西門外七七九 郭五湖

沿革及經理 郭五湖、郭連登發起し所在住民の親睦  
 を計らん爲め創立し會員より各五圓宛を出願し之を利  
 殖して祭費に充つる事とせり現在貸金九十圓、年收利  
 息十八圓あり

保生大帝會 嘉義市北門町四ノ二二二

祭神 保生大帝  
 會員 四十人(羅山在住の吳姓漳州人)  
 創立 寬政八年頃  
 例祭 舊曆三月十五日

管理人 嘉義市元町吳佳、同吳乃元、同北門  
 町吳慶謙、同檜町吳桂、同盧厝吳水  
 茂、同車店吳窮

沿革及經理 往時漳州より移住せる吳姓の者が祖先  
 を祀り互に親睦を厚ふする爲め各自相當の金員を醸出  
 して本會を組織し基本財産として田地一甲及家屋等を  
 買入れ本會の維持費及祭事費に充つる事としたもので  
 現に田三甲三八二〇、畑〇甲三二二三、建物敷地〇甲  
 五一九八、住家一棟を有し年收百十餘圓あるも五百圓  
 の借金あり典權を設定し居れるも最早期間満了に付更  
 に相當の收益あり祭費を補ふて餘りあるべしと

橋班會 嘉義市嘉義六三

祭神 城隍爺  
 會員 二十人  
 創立 明治四十三年六月  
 例祭 舊曆八月八日

管理 人 嘉義市嘉義六三 蔡漢章

沿革及經理 北原種忠氏嘉義聽長時代に嘉義の住民が祭典に冷淡なるを嘆じ區長等と協議の上祭典の興を添ゆる様勸告され區長等亦た之に賛して本會の創立を見るに至りたるものにして會の財産として現に貸金四十圓あり其年利八圓は維持費及祭事費に充てゝ居ると

保 忠 社 嘉義市北社尾四六七

祭 神 保生大帝

會 員 六人(三臺宮の擔轎)

創 立 光緒元年三月

例 祭 舊曆三月十五日

管理 人 嘉義市北社尾四六七 蕭 欽

沿革及經理 臺斗坑三臺宮の神輿を擔ぐ者を以て組織し會員各自金二圓を出金し本會の基本金とし之を利殖し土地を買入れ其收益を以て祭事費維持費に充てゝ居る所屬財産田〇甲六八九八、年收十八圓ありと

大 道 公 嘉義市竹園子三九

祭 神 保生大帝

會 員 二十人(蕭姓の農民)

創 立 同治八年三月

例 祭 舊曆三月十五日

管理 人 嘉義市竹園子三九 蕭 振

沿革及經理 臺斗坑の蕭芥外七名の同姓者發起し三臺宮の神輿を昇ぎ親睦を圖る目的にて創立したる者にして最初會員各自二圓宛を醸出して基本金とし利殖を計り光緒十年其蓄積金を以て田地を購入し其收益を祭事費に充てゝ居ると所屬財産田〇甲四四一五年收九圓ありと

天 上 聖 母 會 嘉義市竹園子三二

祭 神 天上聖母

會 員 二十五人

創 立 約八十年前

例 祭 舊曆一月十九日

管理 人 嘉義市竹園子三二 黃 舜

沿革及經理 庄内に惡疫流行し人畜の之に斃るゝ者多く爲めに有志協議の上天上聖母に祈願したるに日な經手平穩に歸したるを以て之れ全く聖母の庇護に依るとして黃和尚、黃胡發起して本會を組織し毎年一回祭祀を行ふ事としたるが其祭事費は最初より荒蕪地を有し其收益を以て之に充つる筈なりしが初には其收入も漸會員各自負擔し其後荒蕪地の開墾進捗に隨ひ收入も漸次増加し今日にては其費を支辨して餘りあるに至れり

と所屬財産畑一甲三五七五年收益十四圓

普 度 公 嘉義市竹園子三二

祭 神 普度公

會 員 二十五人

創 立 道光年間

例 祭 舊曆一月廿九日

管理 人 嘉義市竹園子三二 黃 舜

沿革及經理 部落内不運續きの爲め部落の隆昌と幸福を祈らん爲め有志協議の上茅葺の小宇を作り本祭神を祀りたるが其後廟宇倒壊再興の力なきより本會を組織し祭神のみを祭る事したりと所屬財産畑一甲一六七五、養魚池一甲一七六五年收十四圓あり維持費祭事費に充當して居ると

上 帝 爺 會 嘉義市下路頭七七八

祭 神 上帝爺、觀音佛祖、太子爺

會 員 七百人

創 立 不詳

例 祭 舊曆三月六日

管理 人 嘉義市下路頭七七八 賴 氏 怨

沿革及經理 祭神は賴姓の元祖賴元明が清國より奉持し來りしもの同姓者集まり本會を組織し賴公厝を建て祭神及祖先を奉祀する事としたるが其後公厝には祭神を祀らず管理人家に累代奉祀し來れり祭事費維持費は必要に應じ信徒より醸出すと

五 谷 王 會 嘉義市竹子脚二六五

祭 神 五谷王

會 員 七人(同地蕭姓有志)

創 立 約百年前

例 祭 舊曆四月廿六日

管理 人 嘉義市竹子脚一六五 蕭 銘

沿革及經理 約百年前農作物の豐稔と同志の親睦を祈願する爲め創立し當時會員各一圓宛を醸出し基本財産とし爾來其收益を以て祭事費維持費に充てゝ居る現在貸付金四十二圓年利收入十二圓六十錢あり

上 帝 爺 會 嘉義市竹子脚一七三

祭 神 支天上帝

會 員 二十七人(同地蕭姓)

創 立 約三百年前

例 祭 舊曆三月三日

管理 人 嘉義市竹子脚一七三 蕭 榮

沿革及經理 本會は漳州より移住せし蕭姓の者が相



互の親睦を計り幸福を祈願する爲め組織せるものにして當初會員一圓宛を出金し基本金として他に貸付け利殖を計り今日に至れり貸付金二十七圓

### 上帝爺會

嘉義市大溪厝四九四

祭神 玄上帝爺

會員 七人

創立 不詳

例祭 舊曆三月三日

管理人 嘉義市大溪厝四九四 吳老生

沿革及經理 沿革不明なるも會員の祖先が會員の平安と幸福を祈り併せて相互の親睦を敦ふる爲め創立したるものゝ如し所屬財産田〇甲三六八五年收八圓あり維持費に充てゝ居ると

### 水上庄

### 神明會

水上庄南靖四八四

祭神 關帝、其他從祀配祀六神位

會員 五十人(同地羅姓の者)

創立 明治五年一月

例祭 舊曆一月十三日、五月十三日

管理人 水上庄南靖四八六 羅方波

沿革及經理 當初當地最先の移住者羅美源夫妻は當庄の開祖なればとて其遺産を以て祖厝を建立して之を祀りたるが後現祭神を迎え奉祀せり創立以來所屬財産に依り維持され居れり所屬財産畑四甲二六三五、池一甲一五八五、田二九一〇、祠廟敷地〇甲二五四五年收九十九圓ありと

### 福德爺會

水上庄番子寮

祭神 福德爺、文武判官、觀音佛祖、五谷王

會員 百二十一人

創立 道光六年

例祭 舊曆二月十四、十五兩日、四月廿六日

管理人 水上庄番子寮 黃現

沿革及經理 本會は庄民の幸福増進並に農作物の豊穰を祈る爲め同庄の吳光全、黃天來、鐘不顯等發起して創立したる者にして會員は最初基本金として銀若干を醸出し之れにて田畑を買入れ小作料を以て祭事費維持費に充て尙ほ他の神佛にも寄進し來れるが現所屬財産は池五甲〇五二五、畑〇甲三八九〇年收五十八圓ありと

### 福德爺會

水上庄番子寮

祭神 福德爺

會員 九人

創立 咸豐元年

例祭 舊曆二月二日

管理人 水上庄番子寮 吳治

沿革及經理 豐作を祈り平安を願ふ爲め本會を創立し會員各自應分の醸金を爲し土地を購入して所屬財産として其收益を以て祭祀を營み維持費に充て殘餘は會員に分配す所屬財産畑三甲七五八五、原野〇甲四三二五其收益年五十五圓ありと

### 頂街大士爺會

民雄庄民雄

祭神 大士爺

會員 百二十八人

創立 二百年前

例祭 舊曆七月一、二、三日(三日間)

管理人 民雄庄民雄簡貴、同許國綱

爐主 同 劉水

沿革及經理 同地の大士爺信仰者を叫合し一圓宛の醸出を爲すものを會員として本會を創立し別に寄附金を加へ金四百八十圓を得之を利殖して田地を購入し其購料に依り祭費維持費を支辨し今日に至ると所屬財産田八甲九五六〇、畑一甲五〇九六年收四百五十九圓餘ありと

### 小普大士爺會

民雄庄民雄

祭神 大士爺

會員 二十二人

創立 二百年前

例祭 頂街大士爺會に同じ

管理人 民雄庄民雄簡貴、同許國綱

爐主 同 鄭乃邦

沿革及經理 同地の大士爺信仰者を叫合して本會を創立し會員より各一圓宛の醸金を仰ぎ合計五十八圓を得て之を他に貸與し利殖を計り田畑を購入し其收益に依り祭事費維持費を支辨する事として居るか現所屬財産は畑〇甲三一六〇、建物敷地〇甲三四六五あり年收五十二圓餘ありと

### 下街大士爺會

民雄庄民雄

祭神 大士爺

會員 八十六人

創立 二百年前

例祭 舊曆七月廿一日、廿二日、廿三日

管理人 民雄庄民雄簡貴、同許國綱

爐主 同 何占春